

室町時代の学習、百姓・村の様子を考える（鶴ヶ岡事書日記より）

(1) 学習のねらい

さいたま市の室町時代の農村の様子を記した「鶴ヶ岡事書日記」から、室町時代の特徴を把握するなど、地域の具体的な事柄との関わりの中で日本の歴史を理解する。

「鶴ヶ岡事書日記」を読むことで、古文書に触れる学習を行い、さらに、百姓達が団結して自分達の主張を通そうとしている惣村の様子を具体的に理解できる。

(2) 展開

	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉の「鶴ヶ岡八幡宮」の映像を見て、教師の発問に答えながら、鎌倉時代の復習をする。 本時のテーマ、キーワードを全員で読み、確認する。 「室町時代の百姓はどんな生活をしていたのか？」予想を各自でたて、班で話し合い意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒にテンポ良く発表させる。 鎌倉時代の農村の様子を念頭に、予想をたてさせる。 	【映像】 鶴ヶ岡八幡宮など鎌倉史跡
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>『室町時代の百姓、村は「鶴岡事書日記」によると どんな様子だったのか？ 説明しよう！』</p> </div>		【地図】 関東
展開	<ul style="list-style-type: none"> 地図で佐々目郷の「美女木八幡宮」と鎌倉の「鶴ヶ岡八幡宮」の位置を確認する。 同じ「八幡宮」の意味を考える。→ 請勤「なぜ請勤したのか？」 「惣領制」についての概念の説明を聞く。 佐々目郷が鶴ヶ岡八幡宮の荘園であったことを知り、鎌倉・室町幕府が共に、将軍が寄進した意味を考える。 地図、映像を見ながら、佐々目郷についての説明をうける。 <p>【「鶴岡事書日記」を読む。】</p> <p>→ 応永元年(1394年)10月22日条...百姓が年貢をおさめるのを怠けている。</p> <p>応永2年(1395年)7月23日条...百姓が強訴の企てをしている。氷河宮(内谷氷川社)に集まる。</p> <p>原文を、わかる単語に印をつけながら読み進める。</p> <p>→ この時点でわかることを発表する。</p> <p>読み下し文を教師の後について全員で読む。</p> <p>意味を見ながら内容をとらえていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各自でたてた予想が正しいかどうか、さいたま市の資料を中心に使って、検証する授業を展開する。授業に明確な目的を持たせる。 百姓や村の記録は残っている例は少ないが、さいたま市南部の「佐々目郷」の記録が「鶴ヶ岡事書日記」によって残り、百姓、村の様子を知る貴重な資料であることを理解させる。 積極的に「鶴岡事書日記」を読み、意味を理解しようと努めたか。(意欲・態度) 佐々目郷の百姓が「惣郷引懸」(全体的に豊作にも関わらず、作柄の悪い一部の例を引き合いに出し、年貢をまけさせる)を行っていたことを理解させる。 	【映像】 さいたま市 佐々目郷神社 鶴ヶ岡事書日記
	<ul style="list-style-type: none"> 2日分の日記からわかることをノートに書き、班で 		

<p>話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師から他の日付の条の内容を聞き、さらに佐々目郷の百姓と村についての理解を深める。 ・室町時代の資料「農業生産高」「ききんの年代」からわかることをノートにまとめ、発表する。 <p>※『「百姓が税をおさめない」なぜそんなことが起こったのか?』を日記や資料から総合的に考える。 → 村の構成、村の様子など</p> <p>※『全国的には百姓達はどんな動きをしていたのか?』を考える。</p> <p>正長の土一揆...借金帳消し(ほうそう地蔵碑文) 加賀の一向一揆...百姓が一向宗と結びついた を映像を交えて取り上げ、それぞれの百姓の様子、一揆の原因を考える。</p> <p>まとめ ・本時のテーマの問い「室町時代の百姓、村の様子」に対する説明を、学習カードにまとめ、提出する。 ・次時、全員の説明をのせたプリントを見て、さらに理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ~ の作業をテンポよく行わせる。 ・百姓達の連帯、組織化が形成されつつあったことを考えさせる。 ・天災によりききんが頻繁に起こっていたこと、その度に天皇が元号を変えて、政治の一新を図っていたことなど、不安定な時代であったことを理解させる。 ・全国的にも、農民の自治的組織「惣」がつくられ、一揆などの組織的な行動を起こしていたことを理解させる。 <p>本時のテーマに対し、様々な視点から多面的に考察でき、自分の言葉で考えを書くことができたか。(思考・表現)</p>	<p>資料 生産高 ききん</p> <p>【映像】 ほうそ う地蔵 鳥越城 一向一 揆歴史 館</p>
--	--	---

資料

(3)訪問先及び資料の入手先 さいたま浦和博物館、内谷氷川神社(桜区)
美女木八幡宮(戸田)、鶴ヶ岡八幡宮、ほうそう地蔵(奈良県)、鳥越城、鳥越
一向一揆歴史館(石川県)

鶴岡事書日記関係



鶴ヶ岡八幡宮

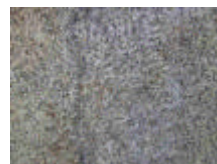


内谷氷川神社
百姓達の寄合の
場所であったようだ



美女木八幡宮(佐々目郷の中心であった)

ほうそう地蔵



百姓達が徳政を
要求している
碑に刻まれている
(正長の土一揆)

鳥越城



一向宗門徒(百姓)が
山城にたてこもり
大名に抵抗した
(加賀の一向一揆)